

かわらばん

第 54 号 2024 年 2 月 10 日



能登大地震に思う 1 女たちの避難所生活……角田由紀子

2 珠洲市に原発が建設されなかったこと……坂元良江

寄稿：言論・出版の自由はどこへ KADOKAWA 出版中止問題に考える……伊藤充子

CINEMA 映画『ゴジラ -1.0』が支持されるのは——……平野卿子

寄稿：矢谷明子コンサート「弦の響きは平和の祈り」開催のお知らせ……岡田弥生

短信：一票で変える女たちの会 F B から

*記事中の URL、一部の写真は、出典サイトとリンクされています。クリックするとリンク先が開きます。

能登大地震に思う 1

女たちの避難所生活

角田由紀子



大きな災害が起きるたびに避難（所）生活での女・子ども・高齢者等の困難な生活が少しずつ話題になってきた。九五年の阪神大震災

ジェンダー視点は着目に値するものとは思われていないことかもしれない。

災の時は女性の性暴力被害の告発がされたが、社会的には無視されたも同然であった。その後、3・11の時はジェンダー視点の重要さが指摘され、この問題に特化したレポートや研究成果も報道された。そして、能登地震である。以前ほど、女・子ども問題は取り上げられてはいない。もちろん、問題がないのではなく、注目度が低下しているからであろう。そういう状況の中で日本共産党議員が取り上げていたが、大手メディアを見ているとあまり関心の対象ではないように感じる。3・11以後の災害を通じて大幅に改善されたという報道もない。ということは、

「防災・危機管理部局に女性職員がいない市区町村は六割、地方公共団体の防災・危機管理部局の女性職員は一割程度にとどまっている（内閣府調査）。能登地震には内閣府の男女共同参画局から一人の職員が派遣され対応に当たっているが抜本的強化が必要」とのこと（「被災地に寄り添う支援を」井上さとし「女性のひろば」二四年三月号）。

今回は被害の甚大さに加えて過疎地の高齢者など日常的に取り残された人々の困難さにはそれなりの取り上げ方がされている。それに比べれば、日常的に注意を払われてこなかったジェンダー問題は目新しくない話題かも知れない。

しかし、いくつかの報道を注意深く見れば、体育館や教室での雑魚寝生活で女性が着替えなどに苦労している、特に断水によるトイレの問題は女性には深刻であることは明らか。避難所運営は日常生活の単なる続きとして見慣れた風景の中に溶け込んでしまっているということだろうか。

そういう中で、『女性セブン』二四年二月一五日号の特集「被災と女性 私たちは避難所でどう生きるか」は目を引く記事であった。メディアの中で唯一この問題をきちんと取り上げたもののようだ（本稿執筆時）。夜のトイレは恐怖の対象でしかない、母親は人目を気にしないで授乳すること



ができな
いとい
う。これ
らはすべ
て遅くと
も3・11
では明らかになっ
ていた問
題だ。災

害時の困難は普段の生活でのその問題の扱われ方を映すと言つてしまえばそれまでだが、ジェンダー平等などどこ吹く風と言わんばかりの現状に改めて頭をガンと殴られた感じだ。上記『女性セブン』でも改めて紹介されていたが日本の避難所の後進国の実態に呆然とする。同誌によれば「日本における避難所の光景は一〇〇年前の関東大震災から何も変わっていない。欧米では災害時の避難所には女性用トイレを男性の三倍設置するなどの基準が法律によつて定められており、ベッドと冷暖房が完備された大型テントが家族ごとに割り当てられていたり、子どもの遊具やコインランドリーが完備されている避難所もあった。」（榛沢和彦同誌四九頁）。このことは3・11の後にもテレビでも報道されていたが、私たちは、あまりの格差にそういう国もあるのねと聞き流して来て、日本も見習うべきという声は上がらなかった。普通の生活の中で人々を大事にするこ

とが行われていなければ災害時の避難所生活は忠実にそれを反映す

るしかない。生活に必要な備品や食料なども十分には備蓄されていなかったようだ。非常時の戦争には備えを怠らず多額の予算をつぎ込むが自然災害は後回しということのようだ。地震列島に住みながらそちらの備えを放置して、武器なんか買っている場合でないと私たちが真剣に訴えるときではないか。憲法一三条の個人の尊厳をもう一度噛みしめたい。そして行動したい。

二〇二四年二月四日
追記・NPO法人コラボは仁藤夢乃さん以下スタッフの面々が、二

能登大地震に思う 2

珠洲市に原発が建設されなかったこと

坂元良江

一月一日の地震で壊滅的な被害を受けた能登半島、珠洲に原発が実現していたら今頃私たちはどうなっていただろう。珠洲市に北陸電力、関西電力などにより原発構想が発表されたのは一九七六年、

月七日からおなじみのピンクのバスに物資を満載して現地に赴き、被災中高女子学生対象の支援活動に入っている。中高生は被災者の範疇からこぼれているのが実態で、被災者の教員たちも援助対象とは思われていない。生理用品、化粧品、キャラクター付きのものもろのグッズ、コートなどの洋服なども、女子学生たちに好きなものを選んでもらっている。自分でも好きなものを選ぶことが喜ばれた。先生たちも喜んで物資を手に入っていた。配布所には笑い声があふれていたという。（二月七日）

四八年前のことだった。国の過疎地域指定を受ける過疎地の再生案として市議会が原発誘致が提言され市議会が要望してのことだった。原発マネーにより過疎の地域の起死回生をはかろうというもの



第1部

<https://www.youtube.com/watch?v=ejixdypBvL4&list=RDNSejixdypBvL4&index=1>

第2部

https://www.youtube.com/watch?v=Nq7hr9_rUIY

だった。

住民たちが立ち上がった。その記録をNHKの記者たちが撮影していた。一九九〇年に「ドキュメンタリー'90 原発立地はこうして進む」と題して放送されたこの番組のディレクターで、一九八六年に起こったチェルノブイリ原発事故の番組、二〇一一年の福島原発事故後の番組などを数多く取材し放送してきた元NHK七沢潔さん（現ジャーナリスト・中央大学客員教授）などのお話を聞き、番組を観るシンポジウムに参加した。Our Planet-TVの主催だった。

当時人口二五〇人の過疎の地域で、番組が追う住民たちの意識や活動はさまざま。電力会社の切り崩しにあい土地の提供を約束する住民たちもいる一方、長期の座り込み、監視小屋を作ったの監視、協力して土地を集めて共有地を作る活動、議員や首長に反対派を当選させる運動などなど。中でも共有地を作る運動の様子を丁寧に伝えていた。七沢さんの話によると番組放送後全国からカンパが集まり、共有地を増やすことができたということだった。この方法は原発計画を中止させる最も有効な方法として全国で行われてきたということだ。

二〇〇三年、構想発表から二七年後に電力会社三社の社長が珠洲市役所を訪れ、珠洲原発の計画凍結（事実上の中止）を申し入れた。住民たちの勝利だった。

映像のインパクトは大きい。監視小屋で電力会社の動きを交代で監視する高齢の女性たちの一人が「田舎もんは人間とは見とらんだがや」と静かに語った言葉に心打たれた。土地や生活を奪われ、

万一事故が起きても住民は犠牲になつて捨てられるのだということとその言葉が語っていた。

七沢さんは地震後、当時活動した人たちを避難先に訪ねた。金沢在住の映像制作者が撮影した映像と七沢さん自身の取材を交え彼らの現在の様子を伝えてくれた。当時反対運動に参加した人たちがいつも集まっていたお寺の住職の携帯電話には地震の後に沢山のメッセージが残されていたとのことだ。「原発を止めてくれてありがとう」「西日本を救ってくれてありがとう」というものだったと語りがとう」というものだったと語る高齢になった住職の目には涙があつた。

この原稿を書きながらネットニュースを見ると、珠洲市に全長四キロ、幅一〇〇〜二〇〇メートルにわたる隆起により、最大約二・二メートルの崖が出現していることが空中写真で確認されたということだ。活断層のずれから生じた地表地震断層である、と東大地震研究所などの調査で判明している。能登半島にそつて一〇〇キロに及ぶ活断層があることも今回判



明した。

珠洲市の隣りには珠洲の計画と同時に進行で計画がすすみ実現した志賀原発がある。地震で配管に亀裂が生じ油が漏れ出ており、変圧器が破損しているとのことだ。復旧が可能かもわからないそうだが、志賀で行われてきた避難訓練が、道路も港も使えなくなる地震では全く役に立たないものだったことも分かった。

国中に無数の活断層があり、いつどこで地震が起きてもおかしくない日本列島には原発は存在できないのだということを今回の地震は教えてくれた。それでも震災後の一月二〇日、関西電力は平然と美浜原発を再稼働させたのだ。原発政策は庶民を人間と思わない「棄民」政策なのだというしかない。

二〇二四年二月三日

寄稿 言論・出版の自由はどういふ

KADOKAWA 出版中止問題に考える

伊藤充子

少女たちへの「不可逆的な傷」

昨年末、怒りと落胆を感じ、一体なぜこんなことが起きているのかと考えさせられることがあった。それは株式会社 KADOKAWA が二〇二三年一二月四日に『あの子もトランスジェンダーになった SNS で伝染する性転換ブームの悲劇』という本の出版予告をし、予約も開始していたが、SNS で「ヘイト本である」という抗議の声を受け、予告から一週間も経たないうちに出版中止にした件である。

私がこの本を読んでみたいと関心を持ったのは二〇二二年一月十五日、SNS で Blah というアカウント名の人が「今、すぐにでも日本語で出版されるべき米国のベストセラーに、Abigail

Shrier (アビゲイル・シュライアー) の『Irreversible Damage: The Transgender Craze Seducing Our Daughters (不可逆的な傷・我々の娘たちを惑わせるトランスジェンダーの熱狂)』がある」と紹介しているのを読んだ時からである。

アメリカで自らの性に違和感を持ち、男性にトランスしたいと思春期ブロッカー(第2次性徴を阻害する薬)治療を受け、乳房を切除する少女たちが急激に増えていることは SNS を通じてよく知っていた。乳房を切除した傷跡も生々しい少女たちが笑顔でガッツポーズしている画像を見るたびに痛ましい思いをすると同時に、なぜ彼女たちは「自分が男である信じ、男になりたいのか」が不思議だった。

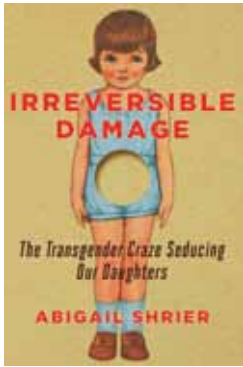
アメリカも日本と同様に男性優位・女性劣位の社会であり、女子や女性が日々差別的な環境の中で苦闘していることは知っている。それでも、私には日本の少女たちと比べてアメリカの少女たちは自分の意思をはっきり持ち、それを表明し、自分のやりたいことに果敢に挑戦し、イキイキと生きているように見える。それなのになぜ男性を自認し「自分の身体を傷つけてまで男になりたい」と思うのだろうか。

私自身の少女時代を振り返ると(いや、今でさえ)「男に生まれたらもつと楽に生きられたのに。男だったらもつとやりたいことをやれたのに」と思ったことが少なからずあった。だが、だからと言って「男になりたい」とは思ったことはない。私にとっては「男であることを羨む」ことと「男になりたいと思う」ことは全く別なことである。それは私がどんなに男を羨んでも「自分の性が男だ」とは思わないからだ。

女という性と男という性の間には大きな距離がある。その距離を

飛び越えるアメリカの少女たちは何を望んでそうするのか、そして飛び越えた後、男性の仲間に入り、男性スポーツに参加し、男子トイレや男子更衣室を使っているのか。幸福に男性として生きているのかを知りたい。また思春期ブロッカー薬剤や修復不可能な切除した乳房は少女たちの身体に男性化という「福音」以外に負の影響はもたらしていないのか、を知りたい。

現在の日本でも「男に生まれたらよかった」と思っている少女たちは決して少なくはないだろう。また自分は本当は男なのではないかと自分の性別に違和感を持つ少女もいるだろう。SNS によってアメリカの現象がすぐに日本の社会にも影響することを既に私たちは経験している。私は、自分の性別に違和感を持ち、女として生きること不安や悩みを抱えている日本の少女たちがアメリカの一〇代の少女たちに起きている現象をどう受け取るだろうかと考えずにはおれない。彼女たちが安易に思春期ブロッカーを服用したり、自



分の身体に不可逆的な変更を加えてしまうのではないかということに危惧せずにはおれない。

だから Blah さんの紹介の本を私は日本の少女たちのために読みたかった。女性問題を長く考え続けてきた者としてフェミニズムの視点から、日本の少女たちのことを思うから、この本を読みたいと思った。この本が早く日本でも翻訳出版されることを願っていた。

翻訳本の出版中止で失ったもの

それから一年以上経って KADOKAWA から日本でも出版するという告知があった。私はすぐ予約した。私のような人が多かったようで数時間で予約のベスト一になっていた。だが、その本の翻訳タイトルが『あの子もトランスジェンダーになった SNS』

で伝染する性転換ブームの悲劇』という刺激的な文字列になっていたことに大きな違和感と不吉な予感を覚えたのは事実。しかも原題で最も重要である「不可逆的な傷」という言葉が消えている。

私が予感したとおり、直後から SNS で「トランスヘイトの本の出版を許すな、トランス差別の本の出版を差し止めよう」という抗議の声が沸き上がり、「一二月九日に KADOKAWA 本社前で抗議デモをする」という予告と呼びかけが行われた。そして一二月八日には SNS で KADOKAWA が出版中止を告知、予約サイトに行ってみると私の予約は影も形もなくなっていた。せっかく読めると期待していた本が読めなくなってしまうって本当にがっかりした。

出版される予定だった本は次のとおり。『あの子もトランスジェンダーになった SNS で伝染する性転換ブームの悲劇』単行本 2024/1/24 アビゲイル・シュライアー(著)、岩波明(監修)、村山美雪(翻訳)、高橋知子(翻訳)。Blah さんによると「ある日突然、

子供が性別違和を訴えた。性別を変更する手続きや治療を受けたいと言っている」と、急増する LG BT 自認の子供たちや途方にくれる親たちのリアリティに迫った一冊だ」そうだ。

KADOKAWA は翻訳出版する企画が出た時に、この本がアメリカではベストセラーでありつつ、大きな論議を呼び、「トランス差別本だ」と抗議されたことを知らなかったはずはないだろう。

シュライアー自身もトランスヘイター・差別主義者とラベリングされ、大学での講演が多数の学生たちの抗議活動によりキャンセルされるなど殆ど活動不能の状態に追い込まれている。日本でもこの本が出版されたらトランスヘイト本だと批判や抗議が起きることは当然予期できたはずだ。それでもなお日本で翻訳・出版することに意義を感じたからこそ出版に踏み切ったのではないのか。すなわち、出版社として言論・出版の自由を守るという意義である。それは同時に受け手である私たちの知る権利を守るということである。一冊

の本をめぐって異論があるなら互いに議論しあうことこそが言論の自由であろう。

この本をヘイト本だと抗議し、出版中止を求めた人々の内の何割が実際に読んでいたのか不明だが、彼ら／彼女らが一様に言っているのが「読みたかったら原書を読め」だった。それで私はつい原書を予約したのだが、英語をスラスラ読めるわけではないので、一冊読み終わるのにどれだけの時間がかかり、きちんと理解できるのか。翻訳本が出版されることがどんなにありがたいことなのかとつくづく思い知り、読む機会を奪われたことが残念でならない。

Blah さんによると「シュライアーは LG BT、とくに T (トランスジェンダー) のイデオロギーが、インフルエンサーやメディアによつて過剰に推されている現状を懸念している。そして「トランスへの渴望」はとりわけ一〇代の少女たちのあいだで「集団感染」する傾向があるようだ、と指摘する。また学校や行政ぐるみで子供たちを囲い込み、保護者から心理

的に引き離したり、未成年者に医療選択を一任したり、子の突発的な性自認に異を唱えただけで親権を奪われかねない法整備の在り方や、子どもの性別移行に積極的な医療業界の闇にも迫っている」そうだ。まさにこれらの部分こそ私が知りたいことである。同時にこの本に抗議している人々が「トランスヘイトだ」とする部分だろう。

また抗議する人々のあげる大きな論点の一つは、監修者の岩波明氏が精神科医であり、特に発達障害を専門分野としてしていることである。この人選が偏見に基づいているというわけだ。だが、少女たちが熱狂的にトランスに向かう時に、家族、学校などの社会状況とともに本人の内的状況をも探ってみる態度は一般的なく当たり前のアプローチではないか。もし自分の人種に違和感を覚え「黄色人種ではない、白色人種である」と言う少女がいたとしたら、まずはきちんと医者相談し、その少女のおかれた環境や心理状態などを調べ、少女にとっての最適解を探るだろう。トランスを希望する少

女たちに対してこのような心理的アプローチをせずにすぐトランス治療を始めることは医療過誤であると思ふ。

この本はアメリカでは大論争を呼んだもののベストセラーになった。イギリスではタイムズ紙やエコノミスト紙が年間の優良図書のリストに加えた。そういう本を読む機会を日本の私たちは奪われたのである。また三大紙の一つである毎日新聞電子版では一二月二二日06:30に「トランスジェンダー本『それでも出版すべきだった』心理学者の見方」というタイトルの記事を掲載。その後16:28(最終更新)では「トランスジェンダー本『不必要にセンセーショナル』心理学者の見方」と「修正」されていった。内容は変わっていないにもかかわらず。一応、文明国であると自負している国の新聞として恥ずかしいことこの上ない。

日本の「言論の自由」の在り方が変質しつつあるのではないかと思わされた今回のKADOKAWAの出版中止であった。

二〇二四年一月二二日

CINEMA

映画『ゴジラ—1.0』 が支持されるのは——

平野卿子

*これから観たい方へ—あらすじが結末近くまで書かれています。

『ゴジラ —1.0』の人氣が止まらない。昨年一月三日に封切られて以来、三カ月たったいま(一月末)も興行収入ランキングでベストテンに入っている。ちよつと変わったこのタイトルについて山崎貴監督は「何もかもを失った戦後の日本。そこに追い打ちをかけるような、かつてない絶望感を与える存在を描く。そんな意味も込め」たという。

キャッチコピーに「生きて、抗え!」とあるように、この作品のメッセージは「生きろ!」ということだ。お国のためではなく、自分のために戦い、そして生きろと。作品そのものはエンタメ系の王道を行っていると云ってよい。特殊撮影を筆頭に、ドラマチック

でいわゆるハラハラ・ドキドキ感にみちており、息もつかせぬ展開となる。

特攻隊員の主人公敷島は、零戦が故障したと嘘をついて大戸島の守備隊基地に降り立つが、ベテランの整備兵である橘に嘘を見破られる。その夜、島に巨大な怪獣(ゴジラ)が現れ、兵たちは銃で応戦するが、とうていかなう相手ではない。橘は敷島に「零戦に装着された20ミリ砲で撃て」というが、こわくてできない。結果、彼と橘を除いた全員が殺されてしまう。

橘はいう——絶対にお前を許さない。敷島は生き残ったことに負い目を感じ、そのことが自分の戦争は終わらないという気持ちにながっていく。つまり、この作品は彼の戦争が終わるまでの物語なのだ。

戦後東京へ戻ってきた敷島は、機雷を撤去する仕事に就く。一九四六年の夏、ビキニ環礁で行われた米軍の核実験によって巨大化したゴジラが現れ、恐るべき脅威になっていくが、駐留連合国軍はソ連軍を刺激する恐れがあると

CINEMA

して軍事行動を避け、軍隊を持たない日本政府はゴジラ討伐を民間に託す（この国は何もしてくれない——これもまた本作品のメッセージである）。けつきよく元海軍の軍人や研究者を中心とした民間人の討伐部隊がその任務を引き受けるのだ。その時、敷島は討伐部隊とは別に、死を覚悟でゴジラと戦う決心をする。敗戦によって使われずに残った開発段階の戦闘機「震電」を探し出すが、そのままでは使えない。彼は昔自分をなじった橋を探し出して修理を頼



み、ただひとりでゴジラに向かって「特攻」する。仲間がかたずをのんで見詰めていると、ゆつくりとパラシュートが開く。橋が安全装置をつけていたのだ（離陸前、敷島が死ぬつもりでいるのを知っている橋が、安全装置を示して「生きろ！」と言う場面は感動的である）。こうしてついに敷島の戦争は終わる。

この映画を見て思い出したのはスピルバーグの映画『シンドラーのリスト』（一九九三年）である。ホロコーストが行われていた時代にドイツ人実業家オスカー・シンドラーが、自身が経営する軍需工場に必要だといって大勢のユダヤ人の命を救った実話を描き、大変な評判となった。当時、この作品についてホロコーストをネタに大衆向けの映画を作ったという批判がまったくなかったわけではない。私自身、実に上手くできているけれど、ホロコーストをこういう形の劇映画にされるのはなあ……というような気持ちのどこかに混じっていた。だが、しかし。当時大学で教えていた私

は、この作品によって学生の意識がものすごく変わったことに気づいたのである。まさにそれは「ビフォー・アフター」というにふさわしかった。『シンドラーのリスト』を見たのをきっかけに、ホロコースト関係の本を読んだり歴史書を紐解いたりする学生が大勢現れた。また、そこまで行かなくても学生たちの現代史に対する関心と知識量が高まったのはまちがいない。それを目の当たりにして、それまで全く知識も関心もなかった人たちにこれほど多くの関心を喚起させたスピルバーグを心から「すごい！」と思った。

話はがらりと変わるが、最近（二〇二四年一月九日）日本テレビのバラエティ番組『ザ！世界仰天ニュース』で森友事件の赤木雅子さんのことが放映された。実は当日私は新聞のテレビ欄でそれを知ったのだが、バラエティ番組だというので見なかった。しかしそのあと、非常に大きな反響があったことを知った。それまで森友事件の実態をあまりよく知らなかった人たちが、この番組を

きっかけに関心を持ち、赤木雅子さんに対する支援の声が挙がったという。朝日新聞のテレビ時評も「故・赤木俊夫さんの一連の出来事が、プライムタイムのバラエティ番組で紹介されたことで、幅広い層に衝撃をもって受け止められた」と記している。

どういう活動であれ、マイナーな領域に関わっている人間は、どこへ行っても同じような顔ぶれで広がりがないことを痛感している。映画やテレビ番組、はたまた漫画などの媒体をメジャーだから、エンタメの要素があるからという理由で退けるべきではないと改めて思ったのだった。



寄稿 矢谷明子コンサート
「弦の響きは平和の祈り」
開催のお知らせ

岡田弥生



昨年二月に掲載して頂いた「大軍拡に抗う 弦の響きは平和への祈り」(48号)を四月七日(日)二時から四時セシオン杉並ホールで開催する。矢谷明子さんの演奏を是非とも直に聴いてほしい。彼女が尽力した東日本大震災後、被災地の子どもたちに楽器を届ける活動が、私にはパレスチナとイスラエルの子どもたちの弦楽合奏団と重なった。その時は、昨年一月七日以降のガザ虐殺は想像もしなかった。「天井のない監獄」に

は関心を持ってきたつもりだが、まさか、病院まで爆撃し、何の罪もない子どもたちの殺戮は衝撃だった。

ロシアのウクライナ侵攻から二年経っても終息の気配が見えないが、エドワード・サイードとダニエル・バレンボイムが育てた弦楽合奏団は二〇年以上を経て、世界で活躍する音楽家が育っている。セシオンでのコンサートは蠅螂の斧だが、少しでも平和への祈りを感じて頂ければ有難い。軍事費増額は日本だけでなく世界的な傾向だが、武器を持てば使いたくなる。戦争は絶対に始めてはいけない。ロシアやイスラエルも国民の協力なくして戦争はできない。ナチスのド

イツや日本でも、狂気を支えた国民がいた。福祉や医療を置き去りにして軍拡する権力者に「殺すな!」「戦争を始めるなら、お前が行け!」と叫びたい。今なら、まだ間に合う。軍事産業の国営化なんて許せない。

一七〇〇年戦争をしていないサンマリノ共和国は、小さくても独立と自由を重んじる主権国家として、ナポレオンから提案された領土拡張案も断り、したたかな外交を重ねてきた。今も国連に加盟するもEUには入っていない。権力者は名誉欲に駆られがちだが、サンマリノでは権力の集中を防ぎ、民意を反映するための仕組みがある。駐日大使の代表「外交団長」サンマリノ大使のマンリオ・カデロ閣下のお話は平和と外交について参考になる。是非とも弦の響きと大使のお話に平和への思いを胸に刻んでほしい。

☆コンサートのご案内☆
「弦の響きは平和の祈り」
二〇二四年四月七日

セシオン杉並ホール
一七〇〇年間一度も戦争をしたことのない世界最古の共和国サンマリノで活躍する矢谷明子が祈りを込めて奏でる《平和コンサート》
ヴィオラ・ヴァイオリン 矢谷明子
ピアノ アレッサンドロ・コン

メッラート

スペシャルトーク

駐日サンマリノ共和国特命全權大使 マンリオ・カデロ氏

〈曲目〉

シューマン「おとぎの絵本」、エネスコ「演奏会用小品」、ヴィヴァルディ「四季」より「春」、マスネ「タイスの瞑想曲」、バッハ「ヴィオラ・コンチェルト」
曲目は予告なく変更することがあります。

チケット(全席自由)

一般・三〇〇〇円

前売り・二五〇〇円

学生・一〇〇〇円(学生証の提示をお願いします)

チケットぴあ

<https://t.pia/event/event.do?eventId=2402300>

問合せ:草の根歯科研究会

TEL/FAX 03-5340-9282

yayoiokada@pcsu.mfnet.ne.jp

主催:草の根歯科研究会

協賛:サンマリノ共和国ヴァイオリン美術館「音楽の家」

後援:サンマリノ大使館



短信

一票で変える女たちの会 フェイスブックから

会のFBから抜粋して情報を掲載します。詳しい内容はそれぞれのサイトをご覧ください。太字の見出しまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないとき、印刷版の場合は、見出しなどで検索してください。日付はFB投稿日。

2月7日

緊急シンポ「能登半島地震から考える原発のこれから」



1月1日に発生した能登半島地震……北陸電力志賀原子力発電所では、一部の系統の外部電源が失われるなど、危機一髪とも言える状況

だった。一方、今回の震源地とされ、最も深刻な被害に見舞われた奥能登の珠洲は、かつて関西電力と中部電力の原発計画があったが、住民たちの粘り強い反対運動もあって計画は凍結された。こうした2つの原発を

めぐる事象について考えるシンポジウムが1月28日、東京の専修大学で開かれ……当日の議論をアーカイブ配信する。

第1部

<https://www.youtube.com/watch?v=ejixdyBvL4&list=RDNSejixdyBvL4&index=1>

第2部

https://www.youtube.com/watch?v=Nq7hr9_rUIY

2月5日

中島由佳利さんのFBから

『レイナ・ザーナ クルド人女性国會議員の闘い』中川喜与志他編クルド学叢書 新泉社

10代の頃から故郷でクルド人政党に所属し、各家庭を訪問して啓蒙活動が続けてきた30歳のクルド人女性。日本に来て難民申請をしてから、在日クルド人女性らに向けて、日本での在外投票のやり方を教えた



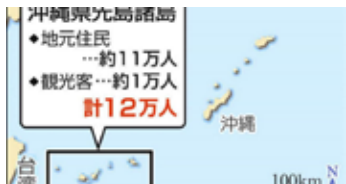
り、母語であるクルド語の歌や楽

器、踊りの練習などの活動が続けてきた。故郷の同胞たちの命を守るためのデモにも、日本で参加した。これらを受けて、彼女には本国から『テロ組織』を支持している」として逮捕状が出ている……難民不認定となり在留資格を取り上げられた彼女は今、裁判で闘っている……

2月5日

実現性あやしい「先島諸島から12万人避難計画」台湾有事を想定 対象住民「島から出ると言われても」東京新聞

中国の武力攻撃による「台湾有事」を想定し、政府が沖縄県の与那国島や石垣島、多良間島など先島諸島の住民ら計12万人を九州地方に避難させる計画に対し、対象となる住民から批判が出ている。計画には障害者や重病者の避難方



法は十分に盛り込まれず、住民への説明機会も足りていない。「有事ありき」で画竜点睛を欠いた計画になりそうだ。(佐藤裕介)

『一票で変える女たちの会』かわらばん★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見なんでもお寄せください。

宛先

Email: 1pyodekaeru@gmail.com

郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo. 45

FAX: 03-5684-1412

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座:

記号番号 00110-6-420003

口座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合:

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキウ)

店 (019)

預金種目 当座

口座番号 0420003



2月4日

地方自治体の首長に注目しよう！

2割が外国籍の群馬県大泉町の町長・村山俊明 票にならなくても外国籍の住民のために奔走する理由
アエラ・ドット―現代の肖像

群馬県大泉町。群馬県でもっとも小さい自治体が目玉を集めている。

人口の2割、5人にひとりが外国籍で、51カ国の人暮らし。そんな町を「俺の町」と呼び、票にならない人のために走り回る町長がいる……



2月3日

「新しい戦争」の波が日本にも迫っている。いま必要なのは「殺し合いを止める」と叫ぶことだ。冷静さを失いかけた世界の中で、この本は正気を保つことの大切さを教えてくれる―大矢英代(国際ジャーナリスト、カリフォルニア州立大学助教授)

「即時停戦！ 砲弾が私たちを焼き尽くす前に」

社会評論社



1月31日

Change.org

あなたの声が強くなります。
DV虐待加害者と子どもの面会交流を強制しないでください

署名の宛先 最高裁判所事務総局家庭局 ほか

1月30日

「WPS」は、紛争などの被害者になりやすい女性が紛争の予防や解決、平和の構築に向けて主体的に参画することが重要だとする考え方で、2000年に国連安保理で決議された。24年後の1月29日、日本でのWPS発足を報道各社が伝えたが、同じ日、上川外務大臣とドイツのフォン・ゲッツェ大使が、自衛隊とドイツ軍が物資・役務を融通し合う「物品役務相互提供協定(日独ACSA)」に署名したという。「両国が国際社会の平和と安全に積極的に寄与」と上川氏。日本は武力を持たない



んじやなかった？

武力によらず国際平和を誠実に希求するんじやなかった？

外務省 WPS 横断組織が発足 上川外相

「オール日本で」―日本経済新聞

外務省は29日、紛争予防や平和構築の議論に女性の参加を促す「女性・平和・安全保障」(WPS)を進める横断組織を発足させた。上川陽子外相は立ち上げの会合で、他省庁と連携し「オールジャパンでWPSの視点をいかしていく」と述べた。

1月30日

アウシュビッツ生存者の子がパレスチナのために声をあげるわけ―NHK
「収容所から解放されたとき、父の体重は32キロでした」



両親がナチス・ドイツによるユダヤ人の大量虐殺「ホロコースト」を生きた抜いたという、77歳のユダヤ人男性は、50年以上にわたってパレスチナの人たちのために声を上げ続けています。その原点は建国まもないイスラエルで10歳の時に経験した、ある出来事にあります……

1月29日

安田純平さん旅券拒否、国敗訴 東

京地裁「裁量権逸脱か乱用」―共同通信

内戦下のシリアで約3年4ヵ月拘束された後、2018年10月に解放されたフリージャーナリストの安田純平さんが、外務省からパスポートの発給を拒否されたのは違法だとして、国に発給拒否処分を取り消しなどを求めた訴訟の判決で、東京地裁(品田幸男裁判長)は25日、発給拒否は裁量権の逸脱か乱用に当たり、違法だとして処分を取り消した。

1月29日

そもそも「県議会と県が公の地に建てることを認めて建立したもの」を代執行で撤去とは。行政が歴史修正主義に加担するような行為。

朝鮮人追悼碑2月11日までに撤去群馬県通知、費用3千万円も請求

―朝日新聞 有料記事



群馬県立公園「群馬の森」(高崎市)にある朝鮮人追悼碑を所有する市民団体は23日、県庁で会見を開き、29

日（2月11日）に碑を代執行で撤去するとの通知を県から受けたことを明らかにした。……『記憶 反省 そして友好』の追悼碑を守る会」は、県が昨年4月に出した撤去命令の取り消しを求める訴訟を前橋地裁に起こしており、2月7日には第1回口頭弁論が予定されている……

1月29日

『外国人ふう』の見た目で犯罪を疑うのは人権侵害」人種差別的な職務質問を巡り提訴へーハフィントンポスト



弁護団は、肌の色や「外国人ふう」の見た目を理由とした職務質問（レイシャル・プロファイリング）は、憲法や人種差別撤廃条約に違反するとして国などに賠償を求めている。

1月29日

「生活保護率が最も低い富山県でどのような判決が出るかとドキドキしていたが、やったああああ……！」とつくろい東京ファンドスタッフの小林

美穂子さんがツイート。



生活保護の減額処分「取り消す」判決原告団「一歩目の勝利」同様訴訟巡っては勝訴が過半数超の「異例の展開」に富山ー富山県のニュースーチューリップテレビ

1月24日

地震や裏金問題ニユースの陰でスルツと。見落とすところでした。これぞシヨックドクトリン。

非常時、自治体への指示可能に政府、特例規定へ改正案

政府が通常国会に提出する地方自治法の改正案の概要が17日、判明した。大規模災害や感染症危機などの非常時であれば、個別法に規定がなくても、国が自治体に必要な指示ができるようにするのが柱。同法に新章を設け、特例措置として規定する。国と自治体は対等という原則は維持する。国の統制力を強め、行政の混乱を防ぐのが狙い……自治体側は「指示が乱発されれば地方の自主性を損なう」と懸念しており、政府は内容

を伝え、理解を求める見通しだ。

12月28日

赤木雅子さん「……勝てないと思っていても続けるしか道はないと思っています」

たくさんの方が応援しています。

公文書改ざん訴訟、赤木さん妻側が上告 高裁は佐川氏個人の責任否定

ー朝日新聞



学校法人森友学園への国有地売却をめぐる財務省の公文書改ざん問題で、改ざんを強いられ、自死した近畿財務局職員の赤木俊夫さん（当時54）の妻雅子さん（52）が、同省理財局長だった佐川宣寿（のぶひさ）氏に損害賠償を求めた訴訟で、雅子さん側は27日、佐川氏の責任を問えないとして訴えを退けた二審・大阪高裁判決を不服として、最高裁に上告した……

12月28日

ーYOUTUBE.COM

元自衛官の五ノ井里奈です。ご報告

があります。自分の言葉で伝えさせていただきます。この動画は沢山の方々に伝えたい内容です。是非観ていただければ幸いです……

<https://www.youtube.com/watch?v=GS8RV4UfSM>

12月20日

裁判所、女性差別であることを明確に認める。

対学校法人聖マリアンナ医科大学損害賠償請求訴訟・一審判決の言渡しーREADYFOR.JP

令和5（2023）年12月25日、東京地方裁判所において、学校法人聖マリアンナ医科大学を相手方とする損害賠償請求訴訟について、原告らの請求を（一部）認容する判決が言い渡されました。

判決文や弁護団のコメントは、弁護団サイトからお読みいただくことができます。

（判決文）

<https://fairexam.net/whatsnew/633/>

（弁護団コメント）<https://fairexam.net/whatsnew/641/>

12月20日

〈考える広場〉家庭内性暴力は見えて
いるか？ 佐藤直子・論説委員が
聞く―東京新聞

今年は旧ジャニーズ事務所の性加害問題が注目され、性暴力は男性から女性に向かうだけでなく、男性同士などさまざまな形があることを示しました。親やきょうだい加害者となる子どもへの性虐待は、家族という私的空間で今も潜在しています。最後の禁忌とされた家族の性の問題を、兄から被害を受けた作家の小林エリコさんと語ります……

12月20日

民間の支援では到底追いつかない実態。

仮放免の外国人2割が「路上生活を

経験」 冷たい

シャワー、冷たい

いご飯…「尊厳

を持って生きて

いけない」―東

京新聞

在留資格がな

い外国人で、入

管施設への収容



を一時的に解かれた仮放免者の5人

に1人は路上生活の経験があること

が、困窮者を支援する3団体の調査

で分かった。仮放免者の居住実態が

明らかにするのは極めて珍しい。3

団体は19日に東京・永田町で会見を

開き、仮放免者らへの居住支援を強

化するよう国や東京都に訴えた。

12月19日

ひどすぎる……

生活保護受給者の印鑑1944本保

管、無断で押印も 群馬県桐生市―

朝日新聞

生活保護費を1日1千円に分割し

て支給をしていた群馬県桐生市は18

日、生活保護を担当する保護係に

1944本の印鑑が保管されていた

と明らかにした。市によると、受給

者から預かり、代わりに押印するた

めのものだったと

みられる。また

2018年度以降

で、職員が受給者

の書類に同姓の別

人の印鑑を押した

例が、少なくとも

86世帯分であった



ことも発表した……

12月13日

【国境なき医師団】ガザ地区南部から帰国した医師の報告会見 (2023年12月13日) ANN/テレ朝―YOUTUBE.COM



★読者のみなさまへ★

一票で変える女たちの会では、「かわらばん」発行のお知らせや投稿募集、憲法集会などの情報を不定期に配信専用のメーリングリスト (ML: 1votewoman@mio-minmio.sakura.ne.jp) でお届けしています。

しかし、最近このMLが届かないという方が増えてきました。多くの場合、迷惑メールとして処理されてしまうようです。お手数ですが、迷惑メールボックスなどをチェックして、受信箱に戻すか、「迷惑メールではない」をクリックしていただきたく、お願いいたします。

また、会からのMLが不要の方、アドレスの変更や新たな登録を希望される方は、1pyodekaeru@gmail.com までお知らせ下さいますよう、お願いいたします。

